

# 業界キーマンの新春展望

当社は、ソリッド

化成品と紙製品の両方を扱う多様性や、当社ならではの開発力、提案力を発揮した食品容器に厚い支持をいただいております。昨年4月には創業50周年を迎えることができました。また、次の10年をさらに実りあるものにすべく、一層気を引き締めて臨んでまいります。

題となりました。引き続き上昇が懸念される物流コストについては、他社同様、10月から一部で送料の価格改定を行うなど効率化を進めており、今後も細部にわたって利益改善に努めてまいります。また、工場人員の配置

利益へと確実に結び付けています。「飛躍の年」をテーマとした昨年は、当社の強みを生かした製品提案に注力しました。一昨年に発売の透明嵌合容器「タイトカップ(スリム)シリーズ」には、角型の「タイトケ

います。

そのほか、業務用食品容器の受注も堅調です。近年の外食・中食産業のセントラルキッチン化や、個食化による好影響で、特にチルド食材向けのトレーなどでお客様からの問い合わせが増えており、

場では2交代制のシフト勤務を採用し、ライン稼働率の引き上げを図っています。が、今後は生産ラインの省力化を図るべく、検品工程などに機械設備の導入を計画しています。今後とも無駄のない生産体制の構築、工場の性能アップに向けた投資を、積極的に行ってまいります。

創業50年の大台に乗り、売上100億円達成という大きな目標を目指しつつも、まずは地に足を付けた経営で利益を積み上げ、業界での確固たる存在感を示していきたいと思っております。今後も、さらなる高みを目指し、流動的な市況を見極めながら、着実に歩みを進めてまいります。

売上にも貢献しています。今年も、当社の独自性をいかんなく発揮できるこれらの分野を主軸に、市場ニーズを捉えた提案に力を入れる所存です。

今後は、人手不足の対策として、生産体制の合理化にも一層注力する方針です。すでに一部の工

## 独自技術の嵌合容器が好評

### 内部改革で生産効率向上図る

昨年の業界

環境を振り返ると、原料価格の不安定感のもとより、物流費や電気料金など諸経費の増加が大きな課題

転換による能率アップや、仕入れ総数、仕入れ方法の見直しなど、内部改革にも力を入れ、これらが

ス(スリム)など多様なアイテムを投入し、お客様から大好評をいただいています。独自技術による

高い密閉性とスリムな嵌合が特徴で、機能と美粧の両立を実現した、他社にはまねできない製品として、引き合いを伸ばして

です。



北原産業 代表取締役社長

北原 忠氏

リムな嵌合が特徴で、機能と美粧の両立を実現した、他社にはまねできない製品として、引き合いを伸ばして

です。